

2017年11月22日

【コラム⑫】～トルコの名産「キリム」～

トルコにご旅行の際、是非ご覧頂きたいのが「キリム (Kilim)」です。絨毯と比べ、毛羽立ちがなく目が荒いのが特徴です。キリムの歴史は古く、紀元前にまでさかのぼると言われています。キリムは軽く丈夫で持ち運びが容易なことから世界各地の遊牧民の間で広く使用され、現代に受け継がれてきました。現在は敷物としてのキリムをよく目にしますが、古くはテントや壁代わりの仕切り、食べ物を保存するための収納袋などその用途は様々でした。羊毛やヤギの毛、綿を紡いだ糸でしっかりと一枚一枚織り込まれ、同じ模様であっても織り手の気分によって色や模様を変えていくこともあり、出来上がったキリムに同じものはなく大変オリジナリティに富んでいます。模様は織り手が生活の中で触れ合う動植物や景色が主で、次第に美しい染色や織り方の技術が向上し、装飾品としても用いられるようになりました。織り方も様々で一般的にキリムと称される平織りをはじめ、目が詰まるように織り込むジジム (Cicim) 織り、まるで刺繍のように浮き出て見えるスマック (Sumak) 織りなどがあります。



現在、時代は変わり遊牧民として生活している人々の数が少なくなってしまうため、遊牧民によって織られるキリムを見かけることはあまりなくなりました。実生活の中で使われていた古いキリムは、今や「アンティーク・キリム」あるいは「オールド・キリム」と呼ばれ、希少価値が高く芸術作品として重宝されるようになりました。「アンティーク・キリム」とは100年以上前のキリムを指し、現在は高額取引がされるようになっています。トプカプ宮殿近くにあるイスタンブールの絨毯・キリム博物館 (Carpet And Kilim Museum) では、素晴らしいキリムの数々をみることができます。そして、30年前～50年ほど前のキリムを「セミオールド・キリム」と

呼び、こちらは店で比較的安価に手に入れることができます。

キリムを売っている店はトルコの各地で見ることができます。キリムの模様は地域によって様々で、例えば、エーゲ海地方や地中海地方では、色が薄く明るめで鮮やかなひし形やボーダー、大き目のメダリオンなどシンプルなデザインが目につきます。黒海沿岸では暗い色合いのキリムが多く、茶色やピンクの色使いも多くみられます。中部、東トルコでは生命の木のモチーフが有名で、花や葉のモチーフ、牡牛の角を重ねたような模様もあります。特にカイセリやコンヤのキリムは有名で織りも細かく、非常に人気があります。



これらのキリムの模様には様々な意味が込められています。例えば生命の木は成功や不死を、牡牛の角は力を意味し、他にも小麦は豊かさを、さそりは自由やプライドを、目は魔除けを、つがいの鳥は愛を、花は子孫繁栄を意味します。キリムは実用的かつ装飾品、芸術品として扱われる一方で、願いや祈りを込めた特別な意味も持っているのです。



現在キリムは敷物、装飾品だけにはとどまらず、ファッション性を重視したバッグやポーチ、靴など様々なものに加工され、お土産ものとして人気を集めています。丈夫なキリムは、遊牧民族時代から収納袋としても使用されてきたので、機能的にもバッグの素材として適しているといえるでしょう。是非トルコにお越しの際は、お好みの色や模様、意味を持つ自分だけのキリムを見つけてみてください。きっとあまりに数が多いので、迷ってしまうことでしょう。キリムを購入の際はお店選びや下調べを怠らず、じっくりと選んでみて下さいね。

トルコ共和国大使館・文化広報参事官室広報代理店

株式会社フォーカス